

# 安全安心マップ かんたんマニュアル

## 保護者(大人)の方へ

危険な場所や危なそうな場所を調査&取材して、集めた情報と撮影した写真をもとに、地域の「安全安心マップ」を作成します。自分が住んでいる地域をよく知ることでなく、情報を整理してわかりやすく伝える能力を実践的に養います。なお、野外調査中は安全面の配慮から、20歳以上の大人が1名以上お付き添いいただくことを推奨いたします。

## ステップ1 作戦会議

〇どんな地図をつくりたいか考える

### 犯罪が起きそうな場所

- ・人目が少ない
- ・路地が入りこんでいる
- ・落書きが多い
- ・たまり場になっている

### 通り道で危険な場所

- ・見通しが悪い
- ・ガードレールが壊れている
- ・街灯がない
- ・工事現場

### 災害のときに危険な場所

- ・大雨のときに川があふれそう
- ・ガードレールがなく落ちてそう
- ・地震でたおれそう

### 安全な場所・安全のための場所

- ・人どおりも多く安心して遊べる公園
- ・子ども110番の家
- ・避難場所となる施設
- ・消火器や消火栓

### 昔からの安全な場所や危険な場所を学ぶ

- ・地域に伝わる防災の知恵
- ・災害の危険を知らせる地名
- ・駆け込み寺



〇調査ルートや地図へかきこむ方法をきめる

学校・家・習いごと・お店・遊び場所など、よく行く場所からかんがえてみる

〇メモ用の地図は、

①大きな本屋さんで売っている地図

- ・・・国土院発行の地形図、住宅地図、観光案内地図

②インターネットの地図情報サービス

- ・・・Googleマップ、Yahoo!ロコ など

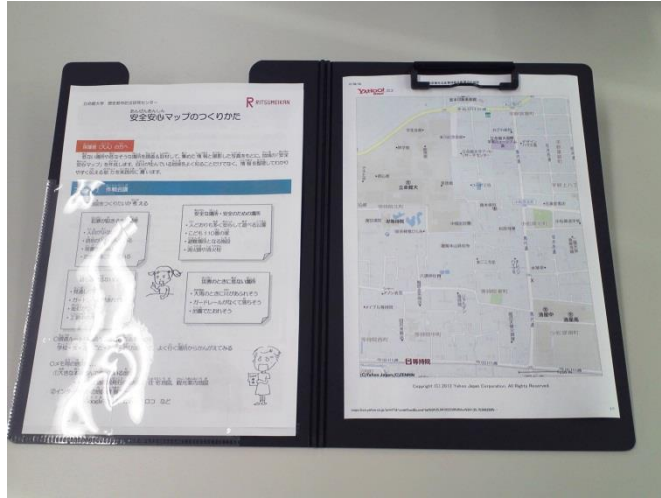


# ステップ2 やがいちようさ 野外調査

もちもの 持ち物： 4色ボールペン 画板 または クリップボード 地図 ふせん デジタルカメラ



4色ボールペン



クリップボードと地図



ふせん



デジタルカメラ

○犯罪が起りやすそうな場所や地震や洪水のときに危なそうな場所を探しながら、町を見て歩く

★交通事故やけがに注意しましょう

○気になる場所を地図にメモする

▼その場所の近くにふせん・シールをはる

▼4色ボールペンで色分けしながら、どうして犯罪が起りそうなのかとか、どうして危ないのかということを書き込む（種類ごとに色分けするとわかりやすい）

○写真を撮る 地図にはりつくと、その場所のようすがわかりやすくなる

▼全体の写真：危ない場所の全体像がわかる写真

▼ピンポイントの写真：「段差があって危ない」など、危ない場所をわかりやすく説明する写真  
その場所を知らない人に、どういう写真を撮ったら分かりやすいか考えながら撮りましょう



地図にメモする



写真を撮る





### ステップ3 ちす 地図をつくる

- ① 模造紙に道路や川を書いて、白地図をつくる
- ② 野外調査で調べたことをまとめて、地図に書き込む情報を選ぶ
  - ▼ 地図に書き込むふせんやメモの情報を絞り込む (1枚の地図で伝えることができる情報は少ないよ)
  - ▼ 情報を種類ごとに分けておく  
(たとえば・・・ ▼危険な場所、▼安全な場所)
- ③ 地図に印をつける・情報の種類ごとに色や形をわかる
  - (たとえば・・・ ▼危険な場所をみどり)、▼安全な場所をピンク)
  - 色鉛筆・色マジック・ドットシールで色分けするとわかりやすいよ
- ④ 見出し：一目でその情報がわかるようにかく
  - (たとえば・・・ 街灯がない)
- ⑤ 説明：どんな危険なのか詳細に説明する内容をかく
  - (たとえば・・・ 事故が多い交差点。自転車で飛び出すととても危険)
- ⑥ 写真：その場所のようすがわかる写真を貼る



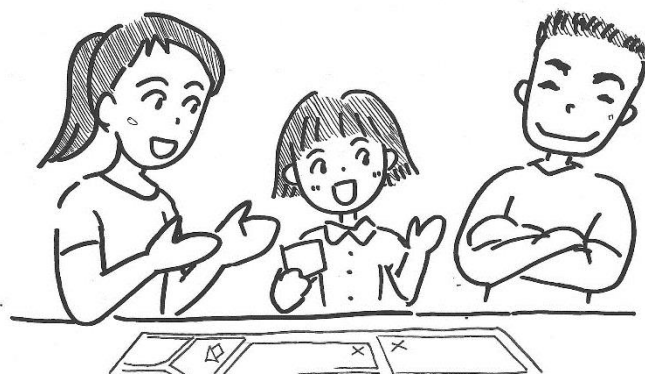
### ステップ4 地図を見せる

○分かりやすい地図になっているかを考えよう

○自分の経験や聞いた話だけでなく、他の人に感想を聞いてみよう（自分が気付かなかったことがわかるかも）

▼一緒に歩いたお母さんやお父さんと話し合ってみよう

▼地図を見せて感想を聞いたら、地図に新しい情報を追加してみよう



編集・発行：立命館大学歴史都市防災研究所

発行日：2018年4月12日

